



聖書箇所:ピリピ人への手紙4章14-20節
「教会の『交わり(コイニア)』」

【1】福音宣教は「交わり」を通して

- ・獄中のパウロの慰め＝主にある兄弟姉妹たちとの「交わり」(ピ°ル° 1:5,14)
- ・パウロとピリピ教会との「交わり」
 - 福音宣教とともに携わってきた(1:5)。
 - 「物をやり取りして私(パウロ)の働きに関わってくれた」(4:15)

▶福音宣教は孤軍奮闘ではなく「ともに携わる(コイニア)」ことを通して前進する。

【2】ピリピ教会からの「贈り物」とは

① 花が咲いた木

- ・主の働き人を良く支えるピリピ教会とのやり取りの中断(ピ°ル° 4:10,15)
- ・ピリピ教会のことを覚えて祈っていたパウロ(1:4-5)
 - 交わりの再開による、寒い季節が過ぎ再び花を咲かせる木々を前にした時のような喜び「…あなたがたの心が、今ついによみがえって」(4:10a)

② 霊的口座に加えられる実

- ・ピリピ教会の「よく私と苦難を分け合」(ピ°ル° 4:14) った精一杯の支援
 - ・自分たちへのキリストの恵みに応えることが動機
 - ・パウロへの贈り物だが最終受取人は主なる神(マタイ 10:40-42)。
 - ・主イエスの「天に宝を蓄える」教えの実践(マタイ 6:20)。
- ピリピ教会からの「贈り物」を「霊的口座に加えられる実」(ピ°ル° 4:17)と表現

③ 芳ばしい香り、ささげ物

- ・旧約聖書における「芳ばしい香り」
 - 祭壇の上で神へのささげ物を焼いた時に立ち上る煙(出エジプト 29:18)
 - 神が喜んで受け入れてくださるささげ物
 - = 「砕かれた霊。打たれ 砕かれた心」(詩篇 51:16-17)

【3】教会の「交わり」とは

- ・私たちが理想を追い求めて造り出すものではない。
- ・D.ボンヘッファー『共に生きる生活』からの引用；「キリスト者の兄弟関係は、われわれが実現しなければならぬ〈理想〉ではなくて、神がキリストにあって創造された〈現実〉であって、その現実になれわれが気づかぬことを許されているのである。われわれの交わりの根拠と力と約束とが、すべてただイエス・キリストにのみあることを、はっきり知るようになればなるほど、いよいよ心安かに、われわれの交わりについて考えることもでき、交わりのために祈り、また望むことができるのである」

▷私たち、イエス・キリストにあって、互いを主にある「兄弟姉妹」と呼び合い、互いのために祈り、励まし合う交わりを喜ぶことができますように。